
2018年3月期
第1四半期決算 及び 通期業績見通し
説明資料

帝人株式会社
2017年8月1日

第 1 四半期決算概況

決算ハイライト

第1四半期（前年同期比）

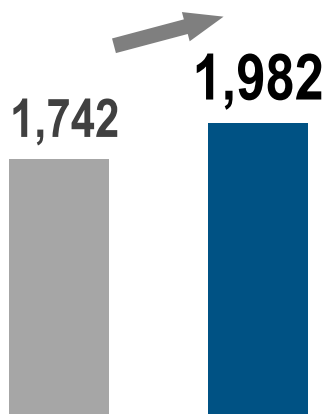
（単位：億円）

売上高

営業利益

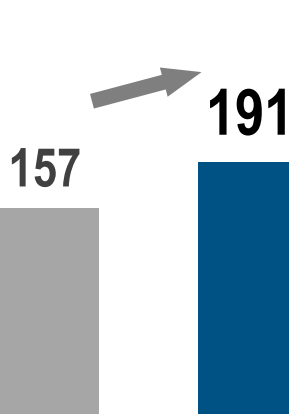
親会社株主に帰属する
四半期純利益フリー・
キャッシュ・フロー

+13.8%



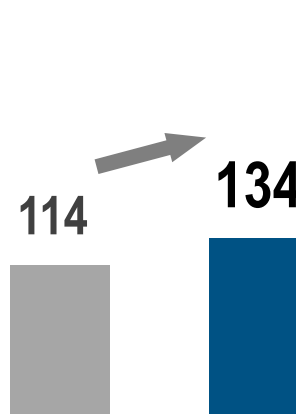
16年度1Q 17年度1Q

+22.0%

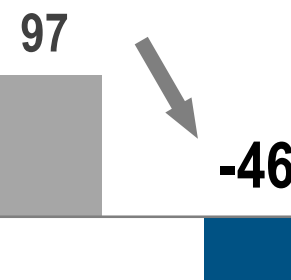


16年度1Q 17年度1Q

+17.1%



16年度1Q 17年度1Q



16年度1Q 17年度1Q

売上高 増収

- 各事業の販売は総じて堅調に推移
- 複合成形材料分野のCSP社*連結子会社化影響

営業利益 増益

- アラミド繊維の自動車向け販売増
- 医薬品分野における新規アルツハイマー病治療薬候補化合物の導出影響

純利益 増益

- 営業利益 増益

フリー・キャッシュ・フロー 減少

- 前期：運転資本減

* コンチネンタル・ストラクチャル・プラスチックス社：2017年1月に連結子会社化

(億円)

◆ 経営成績

	16年度 1Q	17年度 1Q	差異
売上高	1,742	1,982	+240
営業利益	157	191	+34
営業外損益	-13	9	+22
経常利益	144	200	+56
特別損益	-6	-5	+2
税金等調整前 四半期純利益	138	196	+58
親会社株主に帰属する 四半期純利益	114	134	+20
ROE *1	15.5%	15.3%	-0.2%
営業利益ROIC *2	12.4%	12.2%	-0.2%
EBITDA *3	251	303	+52

	16年度 1Q	17年度 1Q	差異
設備投資 *4	89	88	-1
減価償却費	94	112	+18
研究開発費	73	83	+9

*1 「親会社株主に帰属する四半期純利益÷自己資本」にて算出

*2 「営業利益÷投下資本」にて算出

(投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金および預金)

※ *1, *2は年換算後の数値

*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

*4 設備投資には無形固定資産を含む

◇ P L 換算レート

	16年度 1Q	17年度 1Q	差異
円/米ドル	108	111	+3
円/ユーロ	122	122	+0
米ドル/ユーロ	1.13	1.10	-0.03

(億円)

◆ 営業外損益

	16年度 1Q	17年度 1Q	差異
受取利息	2	2	+1
受取配当金	11	11	+0
デリバティブ評価益	—	4	+4
持分法による投資利益	8	3	-5
雑収入	2	2	+0
営業外収益 計	23	23	+0
支払利息	5	6	+1
為替差損	9	5	-4
デリバティブ評価損	16	—	-16
雑損失	5	3	-2
営業外費用 計	36	14	-22
営業外損益 計	-13	9	+22

◆ 特別損益

	16年度 1Q	17年度 1Q	差異
固定資産売却益	2	0	-1
事業構造改善 引当金戻入額	4	0	-4
その他	1	0	-1
特別利益 計	7	1	-7
固定資産除売却損	2	2	-0
減損損失	3	0	-3
投資有価証券評価損	1	0	-1
事業構造改善費用	6	1	-5
その他	1	2	+1
特別損失 計	14	6	-8
特別損益 計	-6	-5	+2

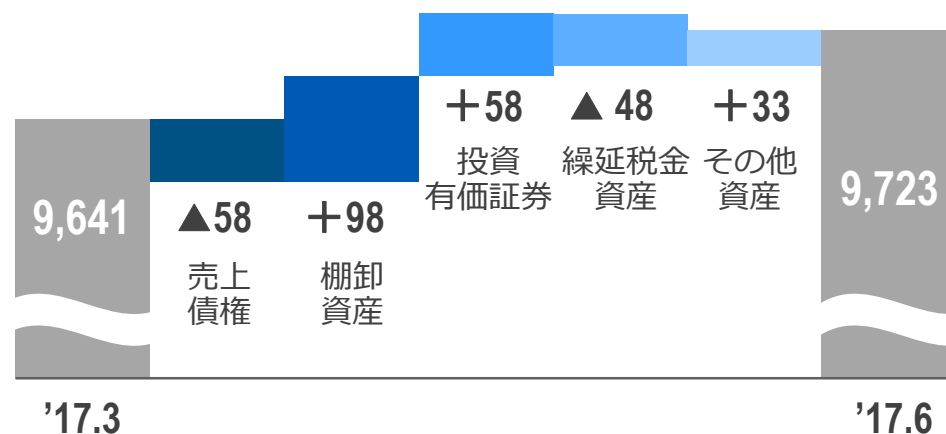
◆ 財政状態

(億円)	17年 3月末	17年 6月末	差異	内 為替 換算影響
総資産	9,641	9,723	+82	+64
自己資本	3,384	3,622	+238	+110
有利子負債	3,762	3,862	+99	+8
D/Eレシオ	1.11	1.07	-0.05	
自己資本比率	35.1%	37.2%	+2.1%	

◆ キャッシュ・フローの状況*

(億円)	16年度 1Q	17年度 1Q	差異
営業活動	206	111	-96
投資活動	-109	-156	-48
フリー・キャッシュ・フロー	97	-46	-143
財務活動他	-35	50	+85
現金及び 現金同等物増減	62	4	-58

◇ 総資産 増減内訳 (億円)



◇ BS換算レート

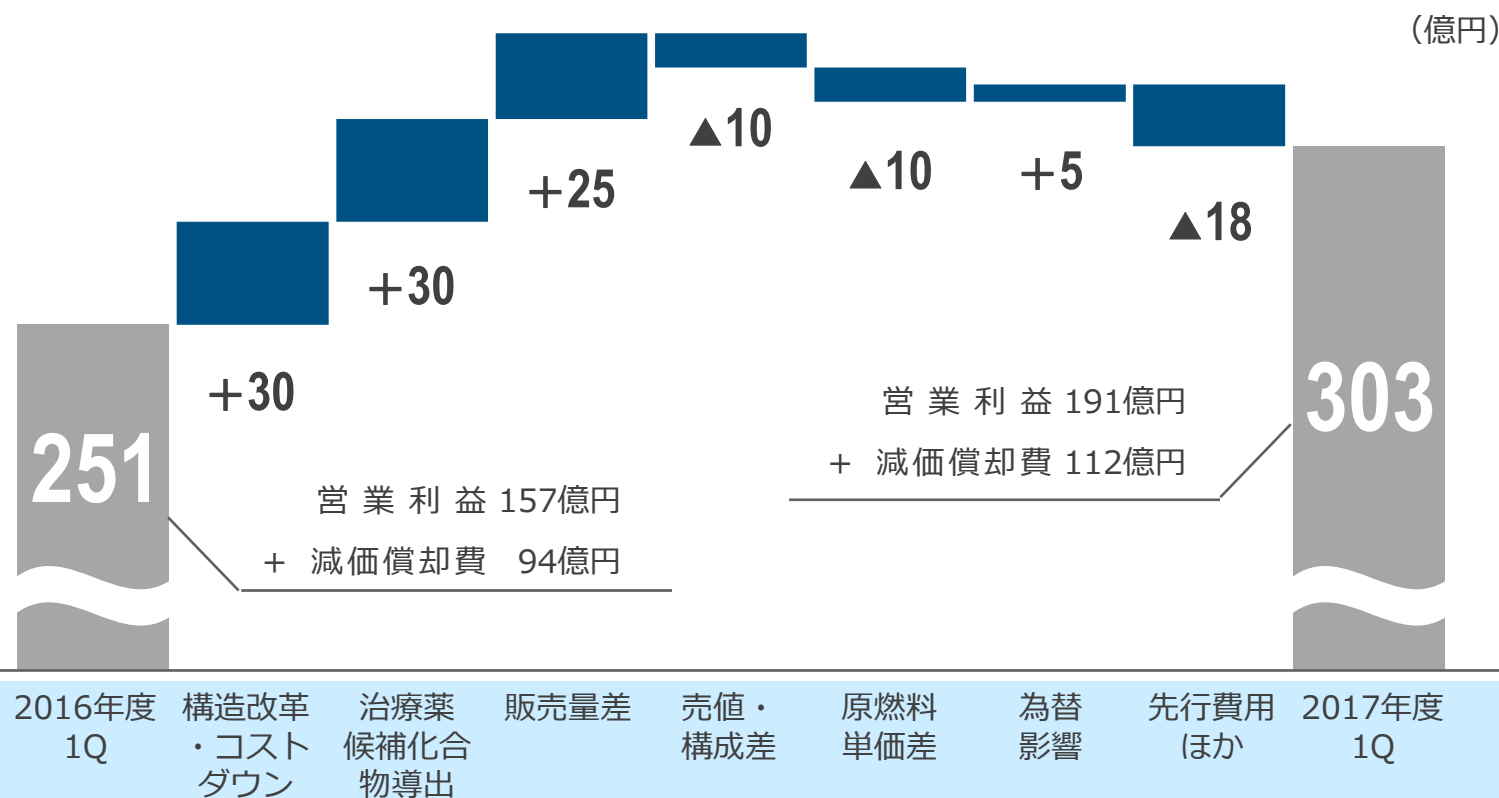
	17年 3月末	17年 6月末	差異
円/米ドル	112	112	-0
円/ユーロ	120	128	+8
米ドル/ユーロ	1.07	1.14	+0.07

* キャッシュ・フローについては金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外

◆ EBITDA*増減分析

前年同期対比
増益

アラミド繊維の自動車向け販売増や、
医薬品分野における新規アルツハイマー病治療薬候補化合物の
導出に伴う対価計上影響等



*「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

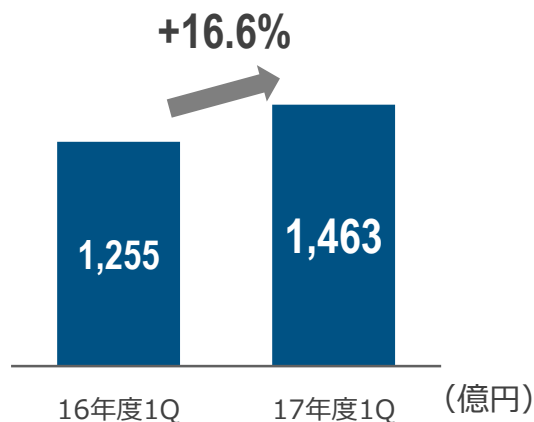
◆ セグメント別 売上高・営業利益比較（前年同期対比）

(億円)		16年1Q	17年1Q	差異	増減率
売上高	マテリアル事業	568	604	+36	+6.3%
	繊維・製品事業	665	664	-1	-0.1%
	複合成形材料事業ほか	21	194	+173	+813.9%
	マテリアル 計	1,255	1,463	+208	+16.6%
	ヘルスケア	381	397	+16	+4.2%
	その他	106	122	+16	+15.0%
	合計	1,742	1,982	+240	+13.8%
営業利益	マテリアル	86	82	-4	-5.1%
	ヘルスケア	80	118	+38	+48.2%
	その他	2	10	+8	+337.4%
	消去又は全社	-11	-19	-8	+67.6%
	合計	157	191	+34	+22.0%

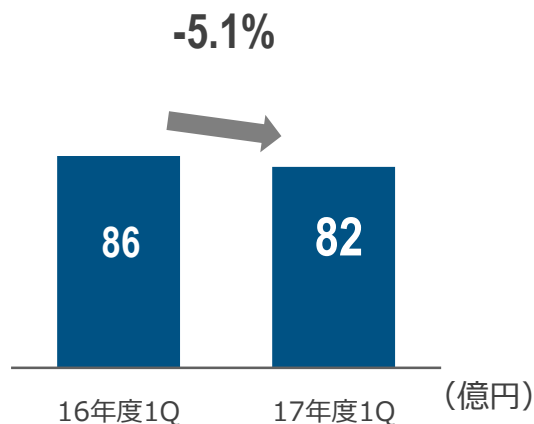
マテリアル

CSP社の連結子会社化により増収
電池部材の競合環境が厳しく微減益

売上高



営業利益



マテリアル事業

- アラミド繊維の自動車関連向け販売増
- 炭素繊維の航空機用途向けの販売順調
- PC樹脂の販売構成の改善
- アラミド繊維の定修影響（前年同期は大規模定修有り）

繊維・製品事業

- スポーツ・アウトドア向け好調維持
- 自動車関連部材向けは顧客の生産調整有り

複合成形材料事業ほか

- CSP社の連結子会社化で増収
- 電池部材の競合環境が厳しく減収

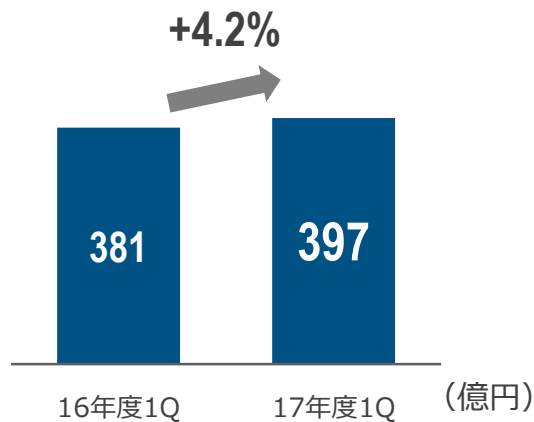
マテリアル

セグメント	売上高 (億円)		概況
マテリアル 事業	568	604	■ アラミド繊維 : 自動車関連用途、防弾用途が堅調 ■ 炭素繊維 : 航空機用途が順調に推移 ■ 樹脂 : P C樹脂および難燃剤が堅調 ■ フィルム : 競争が激化も、スマホ関連部材の工程用 離型フィルムが好調
繊維・製品 事業	665	664	■ 衣料繊維 : スポーツ・アウトドア向け機能素材が好調 ■ 産業資材 : カーシート用生地で顧客の生産調整有り
複合成形材料 事業ほか	21	194	■ 複合成形材料 : CSP社の連結子会社化で増収 CSP社の北米における自動車向け 量産部品販売は堅調に推移 ■ 電池部材 : LIBセパレータの競合環境が厳しく減収
	16年度1Q	17年度1Q	

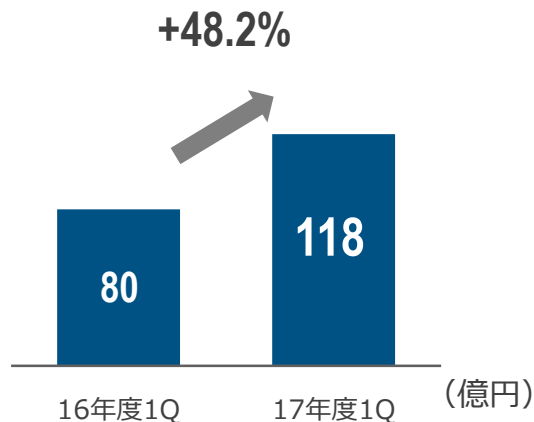
ヘルスケア

主力製品・サービスの販売が順調に拡大し増収
米国在宅医療事業の撤収影響もあり増益

売上高



営業利益



医薬品分野

- 長期収載品の厳しい環境続くも、高尿酸血症・痛風治療剤の販売が拡大
- 新規アルツハイマー病治療薬候補化合物の米メルク社への導出に伴う対価を受け取り増益

在宅医療分野

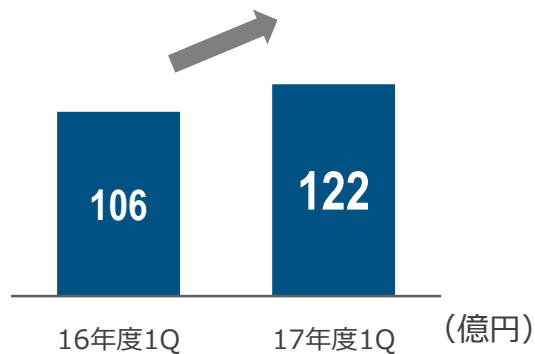
- H O T用酸素濃縮装置は高水準のレンタル台数を維持し、睡眠時無呼吸症候群治療器（CPAP）はレンタル台数が伸長
- 米国事業からの撤退影響で減収・増益

その他

IT事業を中心に堅調

売上高

+15.0%

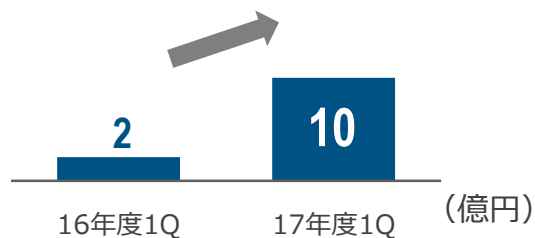


IT事業

- 電子コミック配信サービス「めちゃコミック」の売上が順調に拡大
- ヘルスケア関連の病院・介護領域で、取り扱い案件数が増加

営業利益

+337.4%



◆ 主要トピックス (2017年4月以降)

マテリアル

帝人の樹脂製ピラーレスウィンドウ
が市販車に搭載

京都大学発のEVベンチャー・GLM(株)が、製造するスポーツEV「トミーカイラZZ」に世界で初めてPC樹脂製のフロントガラスを搭載し、ピラーレス化を実現

ピラーレス化による違い

運転席側景色



通常Aピラー有



PCピラーレス

前方・斜め視界が向上
車体軽量化を実現



安全性の向上、
CO₂排出量の削減
省エネ化が可能に



ヘルスケア

新規アルツハイマー病治療薬の
候補化合物を導出

新規アルツハイマー病治療薬の候補化合物について
全世界における独占的開発・製造・販売権を
米国メルク社*¹に供与するライセンス契約を締結

対価の取得

米国メルク社より受け取った一時金：2,750万ドル

今後も、米国メルク社の開発・承認の成功に応じて
総額約3億ドルの対価を受け取る権利を取得

併せて、米国メルク社の販売額に応じて対価を受け
取る権利を取得

帝人のアルツハイマー病への取り組み状況

異常リン酸化タウに特異的に結合する抗体を創
出し、その抗体がアルツハイマー病を模した病
態を呈するモデル動物などを用いた非臨床研究
において優れた有効性を示すことを見出した*²

*¹ Merck & Co., Inc., Kenilworth, N.J., U.S.A.

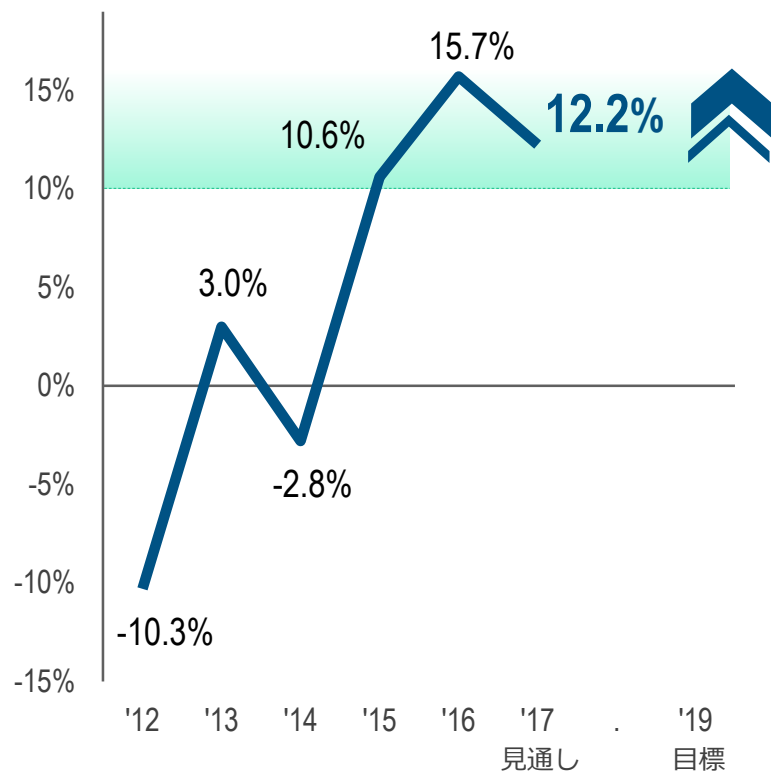
*² 参考文献：T. Umeda, et al., Ann Clin Transl Neurol.
2015 Mar;2(3):241-55

2018年3月期 通期業績見通し

◆ 業績指標推移

ROE*1

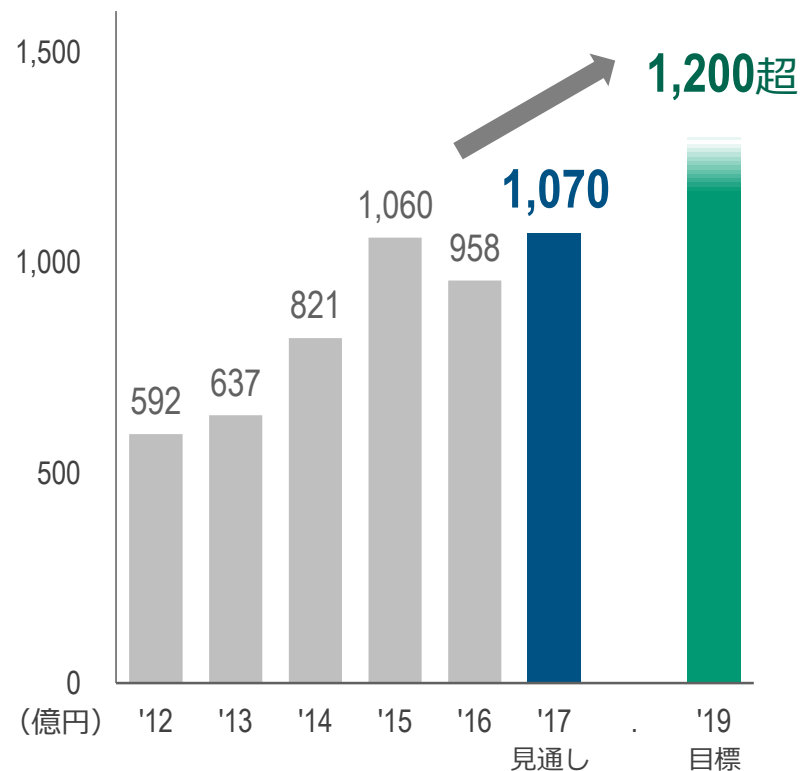
中期目標：10%以上



10%超の安定したROEを維持

EBITDA*2

中期目標：1,200億円超 (2019年度)



キャッシュ創出力を約10%拡大

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

*2 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

◆ 通期業績見通しの概況

(億円)	16年度 実績	17年度 見通し	差異	増減率	17年度 前回見通し*4	前回見通し との差異
売上高	7,413	8,550	+1,137	+15.3%	8,550	—
営業利益	565	640	+75	+13.2%	620	+20
経常利益	559	650	+91	+16.2%	630	+20
親会社株主に帰属する 当期純利益	501	440	-61	-12.2%	420	+20
ROE*1	15.7%	12.2%	-3.5%		11.9%	+0.4%
営業利益ROIC *2	10.0%	10.0%	-0.0%		9.8%	+0.2%
EBITDA (億円) *3	958	1,070	+112		1,050	+20
フリー・キャッシュ・フロー	-486	100	+586		80	+20

2017年度見通し 前提条件

通期為替レート 米ドル=110円、ユーロ=124円
原油価格(Dubai) 50米ドル/バレル

2017年度 配当金予想

中間 30円/株 年間 60円/株
(前回見通しから変更なし)

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

*2 「営業利益÷投下資本」にて算出

*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金および預金

*3 「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出

*4 前回見通しは2017年5月9日公表

◆ 投入資源

設備投資*

研究開発費

目標

成長・発展戦略投資 約50%

複合成形材料、炭素繊維能力増強、電池部材ほか
(北米新工場含む)

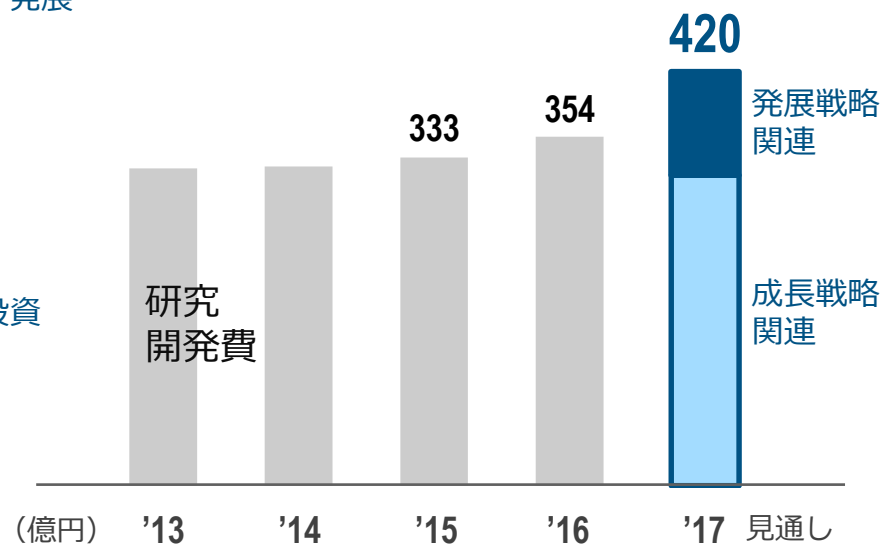
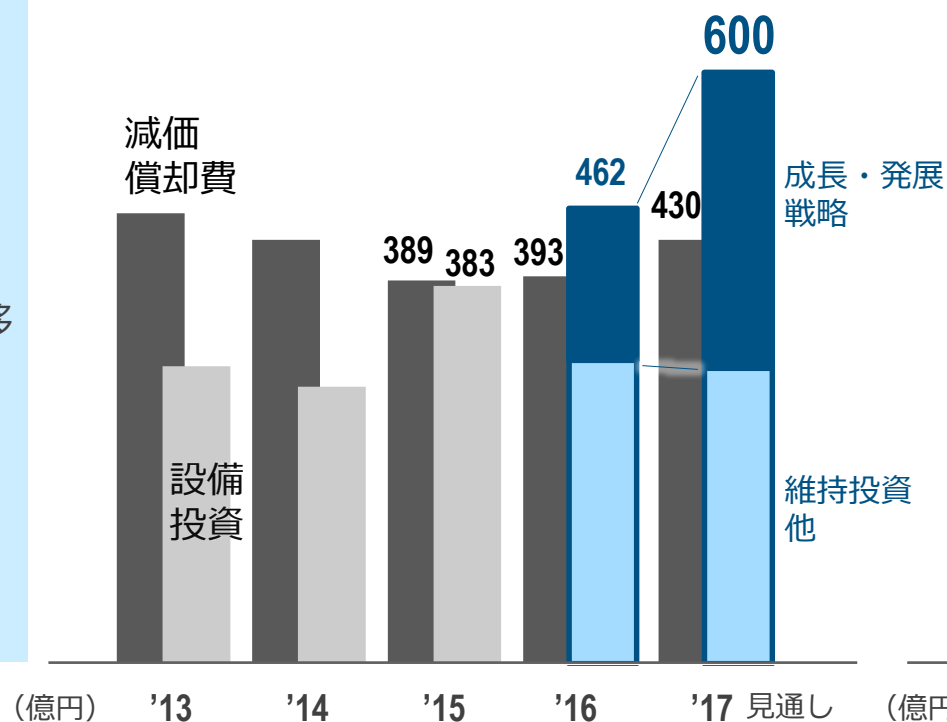
発展戦略関連 約25%

複合成形材料・電池部材・新規ヘルスケア

成長戦略関連 約75%

創薬開発フェーズ進捗・マテリアル基盤技術強化

推移

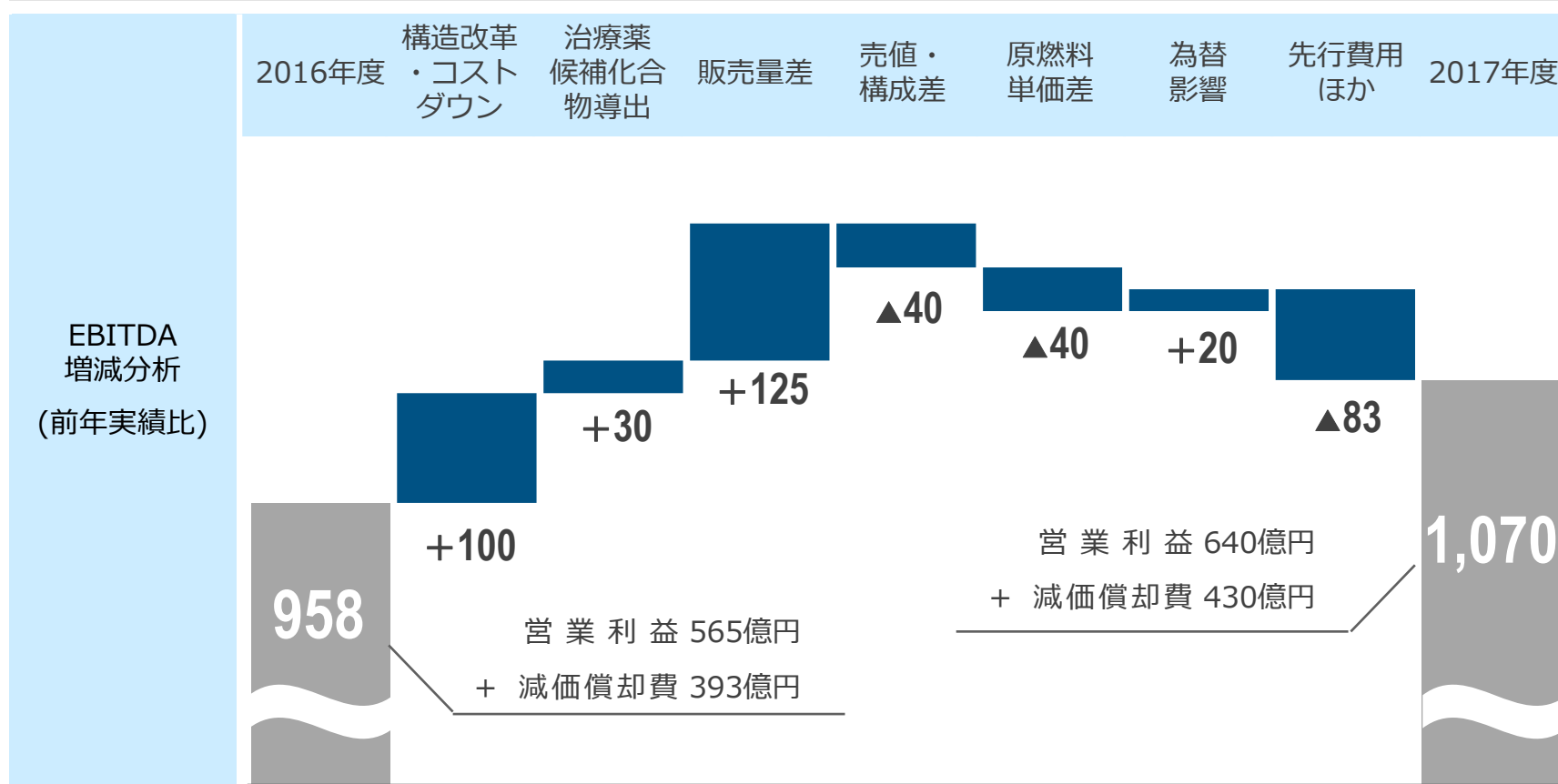


* 設備投資には無形固定資産を含む

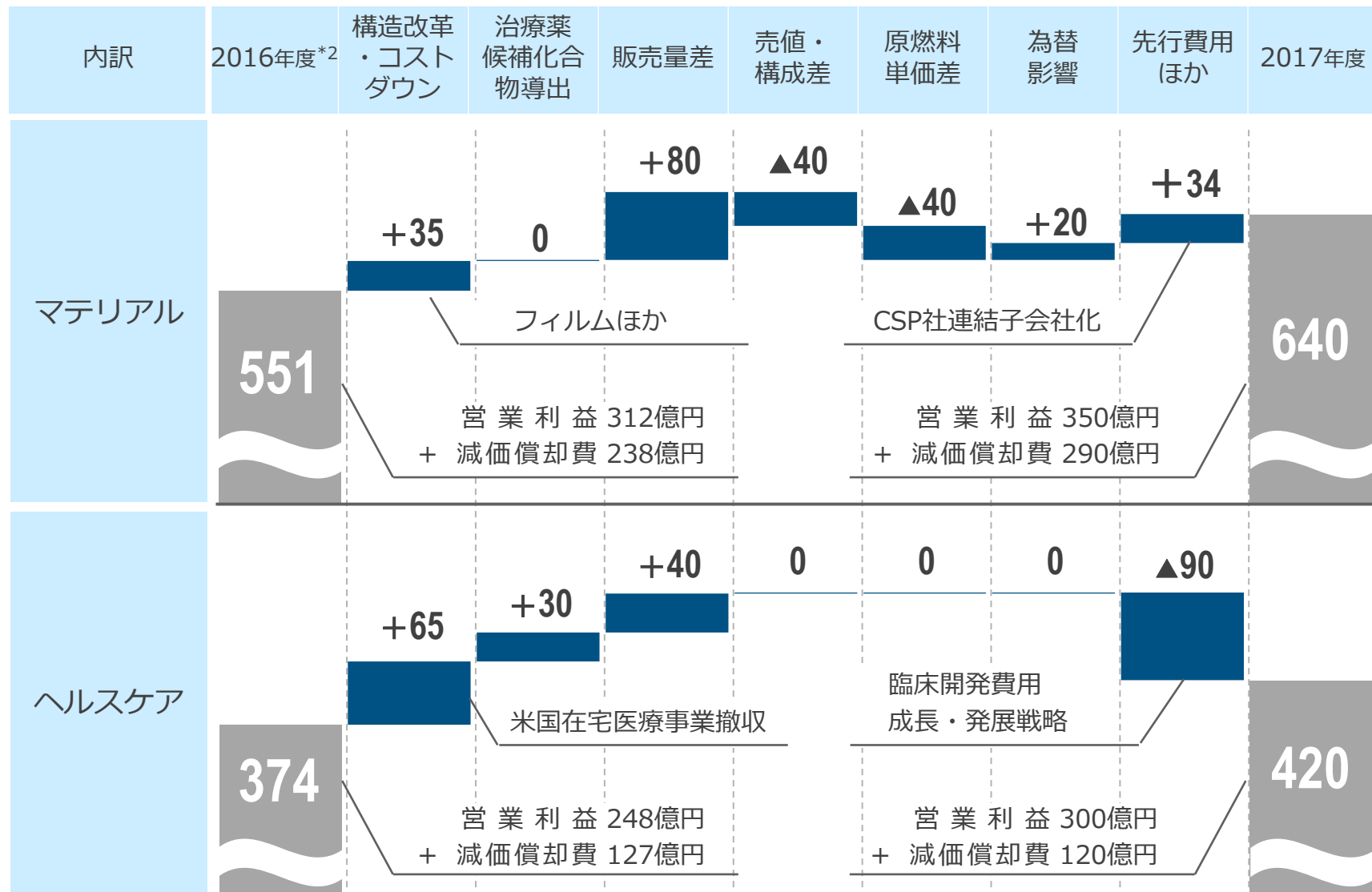
◆ EBITDA*増減内訳

前年実績対比
増益の見通し

治療薬候補化合物の導出対価の計上に加え
自動車向け等の販売量増や米国在宅医療事業の撤収影響が
スプレッドの悪化や先行投入費用増をカバー



*1 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

◆ セグメント別 EBITDA*¹増減内訳*¹ 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出*² 16年度実績の各数値は、2017年5月9日公表後にセグメント間の調整を加えた結果、見直しを実施しております。

◆ セグメント別 経営指標

		16年度* ¹	17年度	差異	17年度	差異
		実績	今回見通し	前年実績対比	前回見通し* ²	今回ー前回
EBITDA* ³						
(億円)	マテリアル	551	640	+89	640	+0
	ヘルスケア	374	420	+46	400	+20
	その他	67	70	+3	70	+0
	全社・消去	-34	-60	-26	-60	+0
	合計	958	1,070	+112	1,050	+20

営業利益ROIC*⁴

(%)					
	マテリアル	9.7%	9%		9%
	ヘルスケア	21.8%	24%		22%
	合計	10.0%	10%		10%

*1 16年度実績の各数値は、2017年5月9日公表後にセグメント間の調整を加えた結果、見直しを実施しております。

*2 前回見通しは2017年5月9日公表

*3 「営業利益＋減価償却費（のれんを含む）」にて算出

*4 「営業利益÷投下資本」にて算出 *投下資本＝純資産＋有利子負債－現金および預金

◆ セグメント別 売上高・営業利益推移（2016年度実績対比）

		16年度実績*			17年度 今回見通し			差異
(億円)		上期	下期	年間	上期	下期	年間	年間
売上高	マテリアル事業	1,114	1,166	2,281	1,200	1,200	2,400	+119
	繊維・製品事業	1,395	1,478	2,873	1,450	1,750	3,200	+327
	複合成形材料事業ほか	42	203	245	400	400	800	+555
	マテリアル 計	2,551	2,848	5,398	3,050	3,350	6,400	+1,002
	ヘルスケア	750	756	1,507	800	750	1,550	+43
	その他	229	278	508	300	300	600	+92
	合計	3,530	3,882	7,413	4,150	4,400	8,550	+1,137
営業利益	マテリアル	162	150	312	150	200	350	+38
	ヘルスケア	110	138	248	190	110	300	+52
	その他	19	34	53	20	30	50	-3
	消去又は全社	-21	-27	-48	-30	-30	-60	-12
	合計	270	295	565	330	310	640	+75

* 16年度実績の各数値は2017年5月9日公表後にセグメント間の調整を加えた結果、見直しを実施しております。

◆ セグメント別 売上高・営業利益推移（前回見通し*対比）

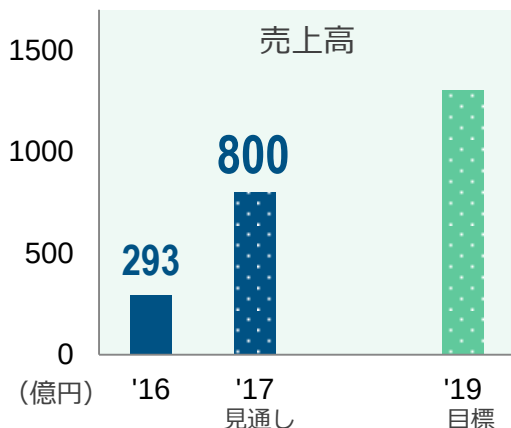
		17年度 前回見通し*			17年度 今回見通し			差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	年間
(億円)								
売上高	マテリアル事業	1,150	1,200	2,350	1,200	1,200	2,400	+50
	繊維・製品事業	1,550	1,750	3,300	1,450	1,750	3,200	-100
	複合成形材料事業ほか	400	400	800	400	400	800	—
	マテリアル 計	3,100	3,350	6,450	3,050	3,350	6,400	-50
	ヘルスケア	750	750	1,500	800	750	1,550	+50
	その他	300	300	600	300	300	600	—
	合計	4,150	4,400	8,550	4,150	4,400	8,550	—
営業利益	マテリアル	145	205	350	150	200	350	—
	ヘルスケア	165	115	280	190	110	300	+20
	その他	20	30	50	20	30	50	—
	消去又は全社	-30	-30	-60	-30	-30	-60	—
	合計	300	320	620	330	310	640	+20

* 前回見通しは2017年5月9日公表

発展戦略の進捗と見通し

中期計画通りに進捗中

マテリアル 発展戦略



複合成形材料

- ・北米地域の自動車用途で
C S P社製複合材料の販売が堅調

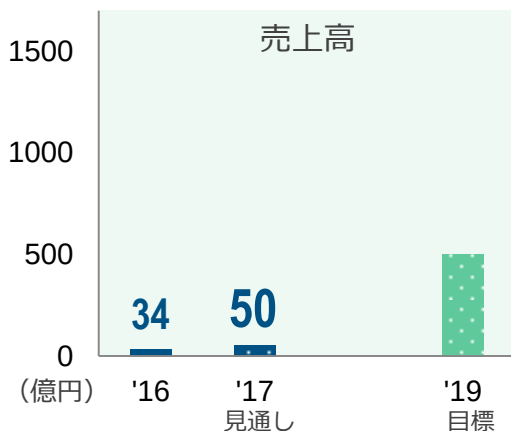
LIBセパレータ

- ・民生用途：**アジア顧客**への販路拡大
- ・車載用途：顧客評価推進

樹脂グレージング

- ・**新規コーティング技術**の事業展開推進
- ・C S P社とのシナジー効果発現

ヘルスケア 発展戦略

埋め込み型
医療機器

- ・7月に**帝人メディカルテクノロジー(株)**を設立
帝人ナカシマメディカル(株)とのシナジー効果
で**生体内分解吸収性骨接合材料の販売拡大**へ

機能性食品素材

- ・**大手食品メーカー**との連携、採用拡大
- ・新規スーパー穀物の探索推進

新規医療機器
デジタルヘルスケア

- ・**新規医療機器**の導入検討
- ・**RFID棚管理システム「レコピック」**
の病院展開を拡大

◆ 主要経営指標推移

	13年度 実績	14年度 実績	15年度 実績	16年度 実績	17年度 見通し
ROE* ¹	3.0%	-2.8%	10.6%	15.7%	12.2%
営業利益ROIC * ²	3.4%	7.1%	12.7%	10.0%	10.0%
EBITDA (億円) * ³	637	821	1,060	958	1,070
1株当たり当期純利益 (円) * ⁴	42.5	-41.1	158.1	254.9	223.6
1株当たり配当金 (円) * ⁴	20	20	35	55	60
総資産 (億円)	7,684	8,237	8,234	9,641	10,000
有利子負債 (億円)	2,815	3,082	3,033	3,762	3,800
D/Eレシオ * ⁵	1.00	1.07	1.01	1.11	1.0
自己資本比率	36.7%	34.9%	36.4%	35.1%	38.0%

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

*2 「営業利益÷投下資本」にて算出

*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金および預金

*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

*4 株式併合による株数の変化を反映したベースで記載

*5 「有利子負債÷自己資本」にて算出

見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

事業等のリスク

業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

1. 競合・市況変動にかかるもの

帝人グループは市況製品を展開しており、景気動向、他社との競合に伴う市場価格の変動、購入原燃料の価格変動、また為替、金利といった相場の変動が事業業績に影響を及ぼす可能性があります。

2. 製品の品質にかかるもの

事業活動全般において品質保証を確保する体制を敷いていますが、製品・サービスの欠陥が業績、財務状況、社会的評価等に悪影響を及ぼす可能性があります。

3. 研究開発にかかるもの

研究開発に対し積極的に経営資源を投入していますが、特に医療用医薬品の開発には、多額の費用と長い期間がかかるうえ、創薬研究において、有用な化合物を発見できる可能性は決して高くありません。また、種々の要因により承認申請を断念しなければならない可能性があります。また、承認申請した後でも承認が取り消されることがあります。

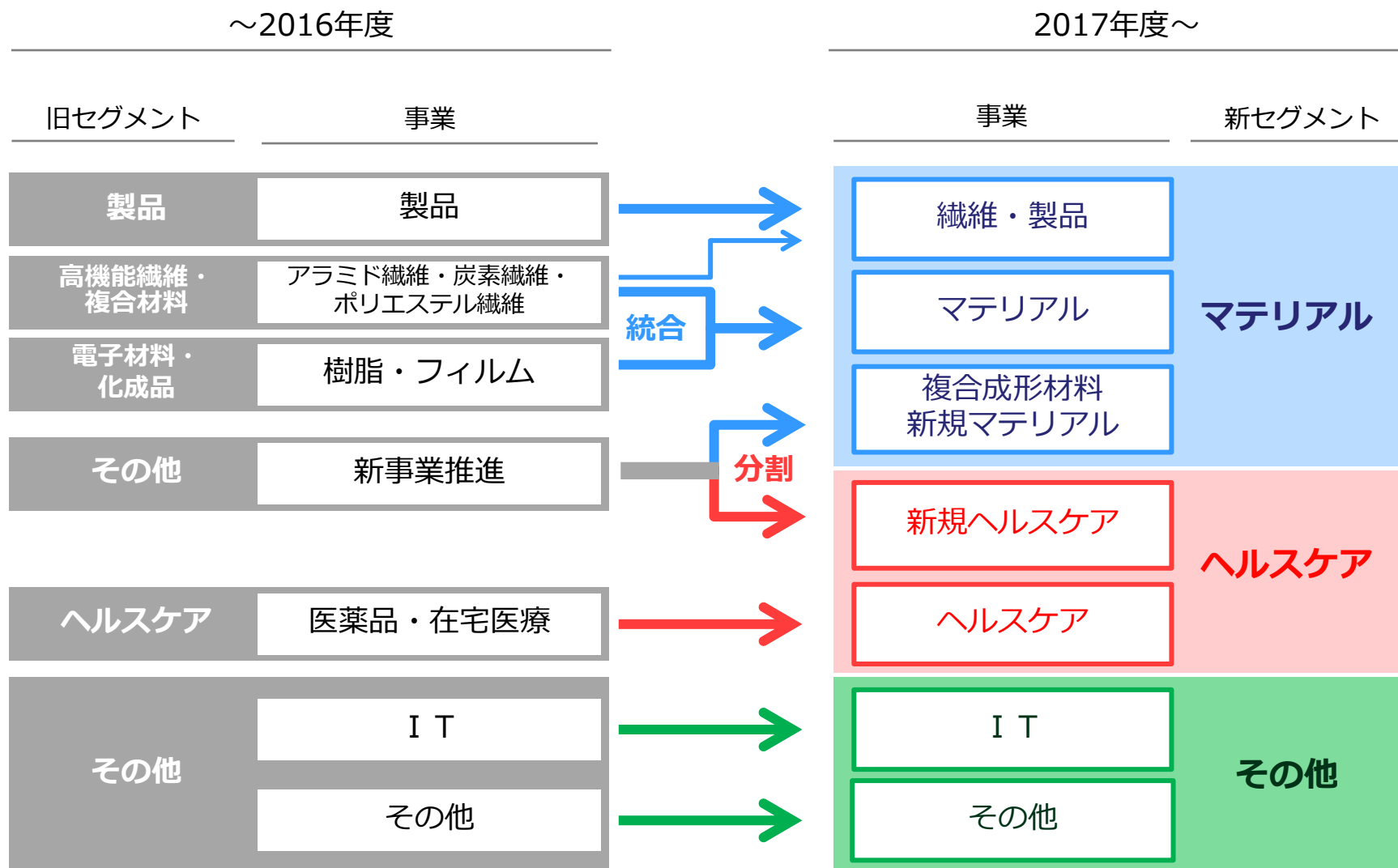
4. 海外活動にかかるもの

海外での活動について為替変動に係るリスクのほか、予期しない法律・規制の施行、不利な影響を及ぼす租税制度の変更、経済変動、政変・テロ・戦争等による社会的混乱により、経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

5. 事故・災害にかかるもの

大規模な自然災害や不慮の事故等により生産設備が損害を受けた場合や原材料の供給等サプライチェーンに大きな障害が生じた場合は帝人グループの経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

◆ 組織再編（開示セグメントの変更）



◆ 連結貸借対照表

(億円)	15年		16年				17年	
	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末
資産								
流動資産	3,956	4,150	4,305	4,137	4,036	5,096	4,668	4,736
固定資産	4,071	4,069	3,929	3,761	3,762	3,962	4,973	4,987
合計	8,027	8,219	8,234	7,898	7,797	9,058	9,641	9,723
負債・純資産								
負債	4,838	4,918	5,090	4,855	4,632	5,515	6,122	5,966
(内 有利子負債)	2,836	2,811	3,033	2,978	2,762	3,437	3,762	3,862
純資産	3,190	3,301	3,144	3,043	3,165	3,543	3,518	3,757
合計	8,027	8,219	8,234	7,898	7,797	9,058	9,641	9,723

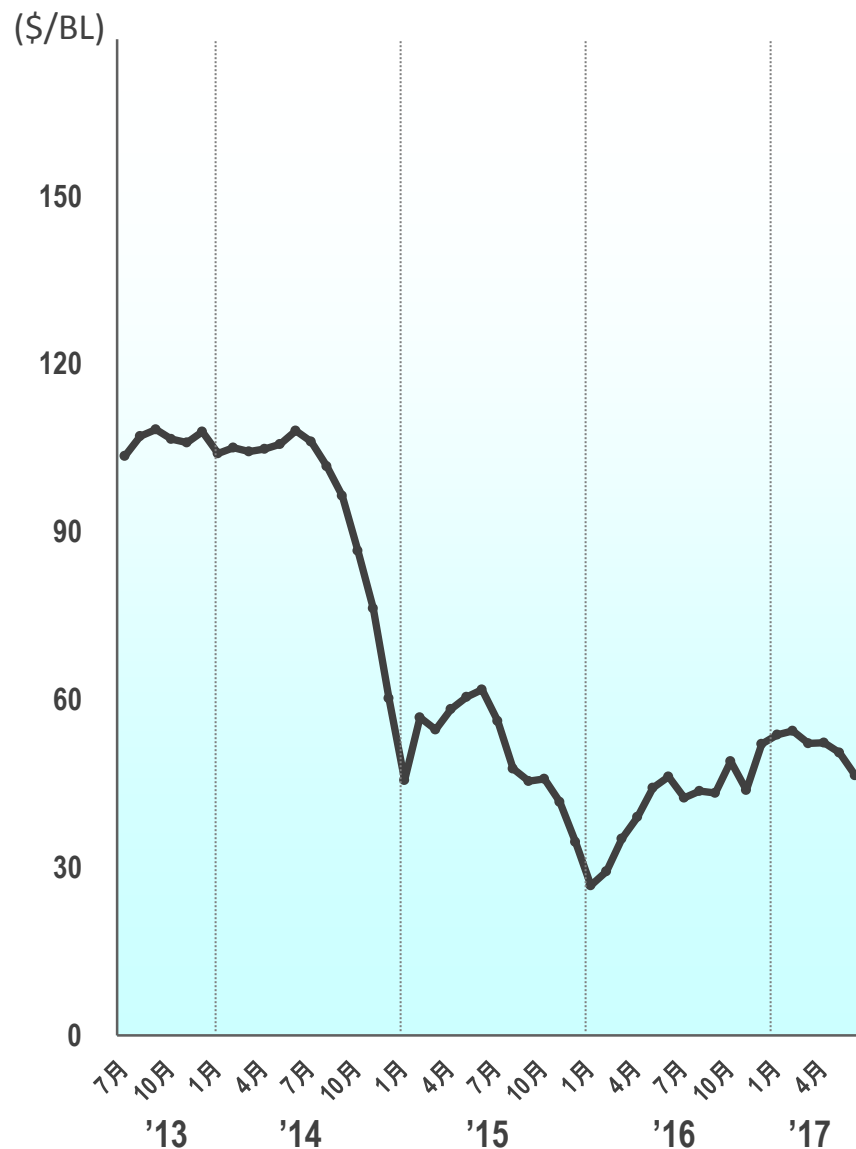
* 詳細については決算短信をご覧ください

◆ 連結損益計算書

(億円)	16年度				17年度	差異
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	17/1Q-16/1Q
売上高	1,742	1,788	1,821	2,061	1,982	+240
売上原価	1,131	1,182	1,196	1,420	1,313	+182
売上総利益	612	606	625	641	669	+58
販管費	455	493	459	512	478	+23
営業利益	157	113	166	129	191	+34
営業外損益	-13	10	25	-27	9	+22
(内 金融収支)	7	-3	2	-3	7	+1
(内 持分法投資損益)	8	17	-2	-3	3	-5
経常利益	144	123	191	102	200	+56
特別損益	-6	-22	-15	-176	-5	+2
税金等調整前 四半期純利益	138	100	176	-75	196	+58
法人税等	22	-2	46	-241	60	+38
非支配株主に帰属する 四半期純利益	1	3	3	6	2	+1
親会社株主に帰属する 四半期純利益	114	99	127	161	134	+20

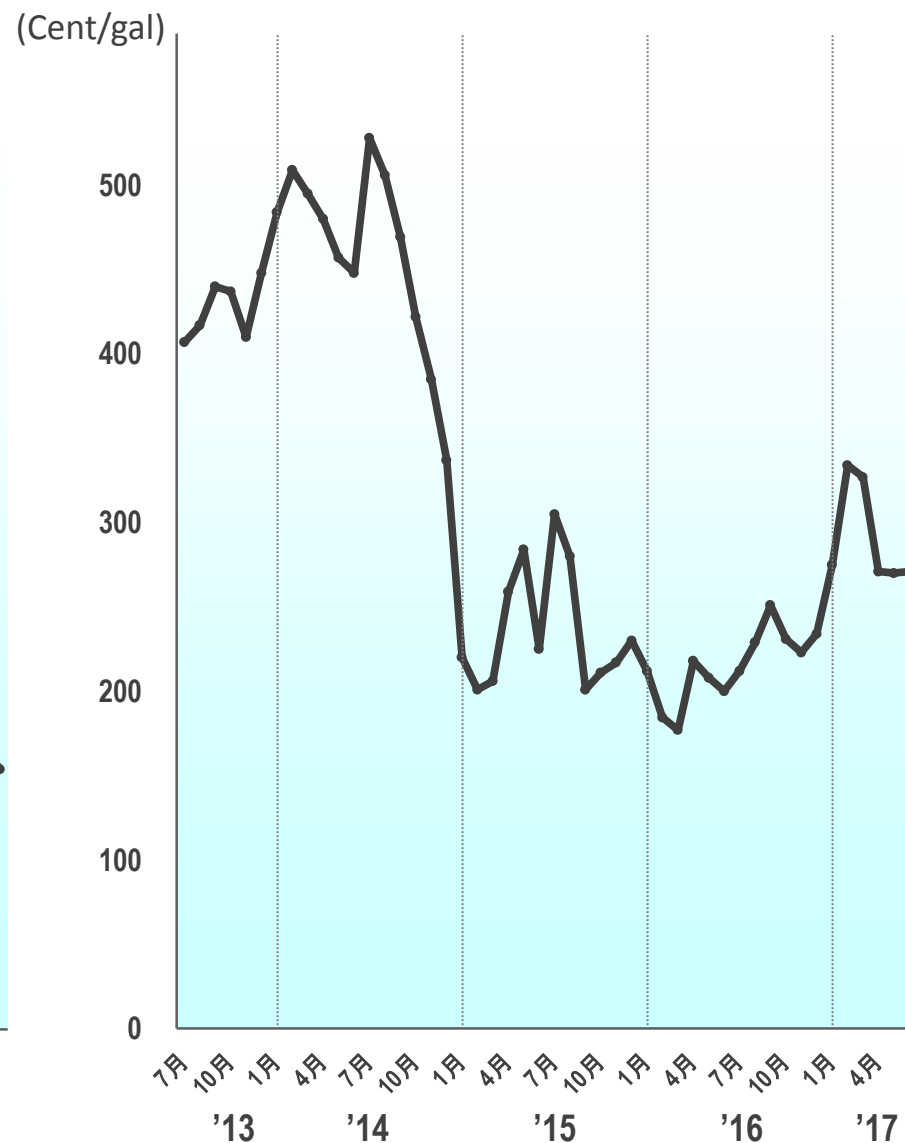
* 詳細については決算短信をご覧ください

◆ ドバイ原油価格推移



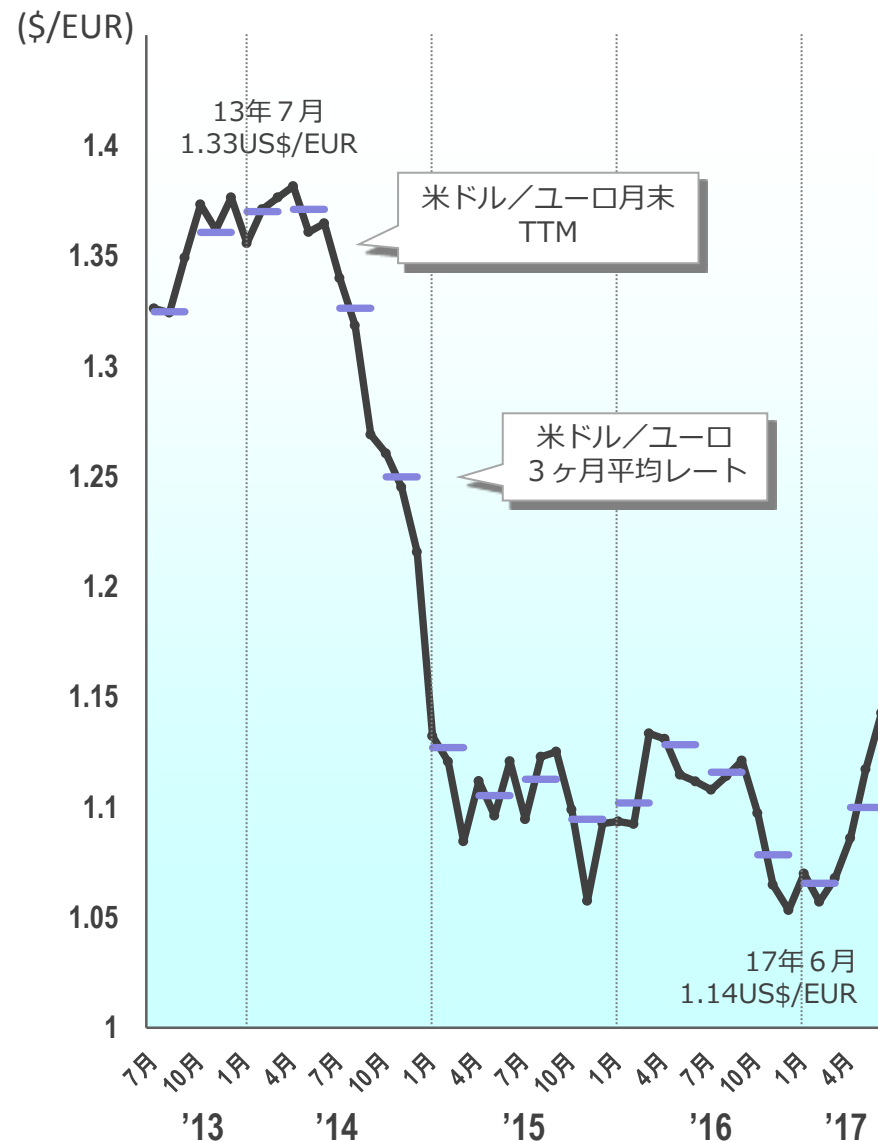
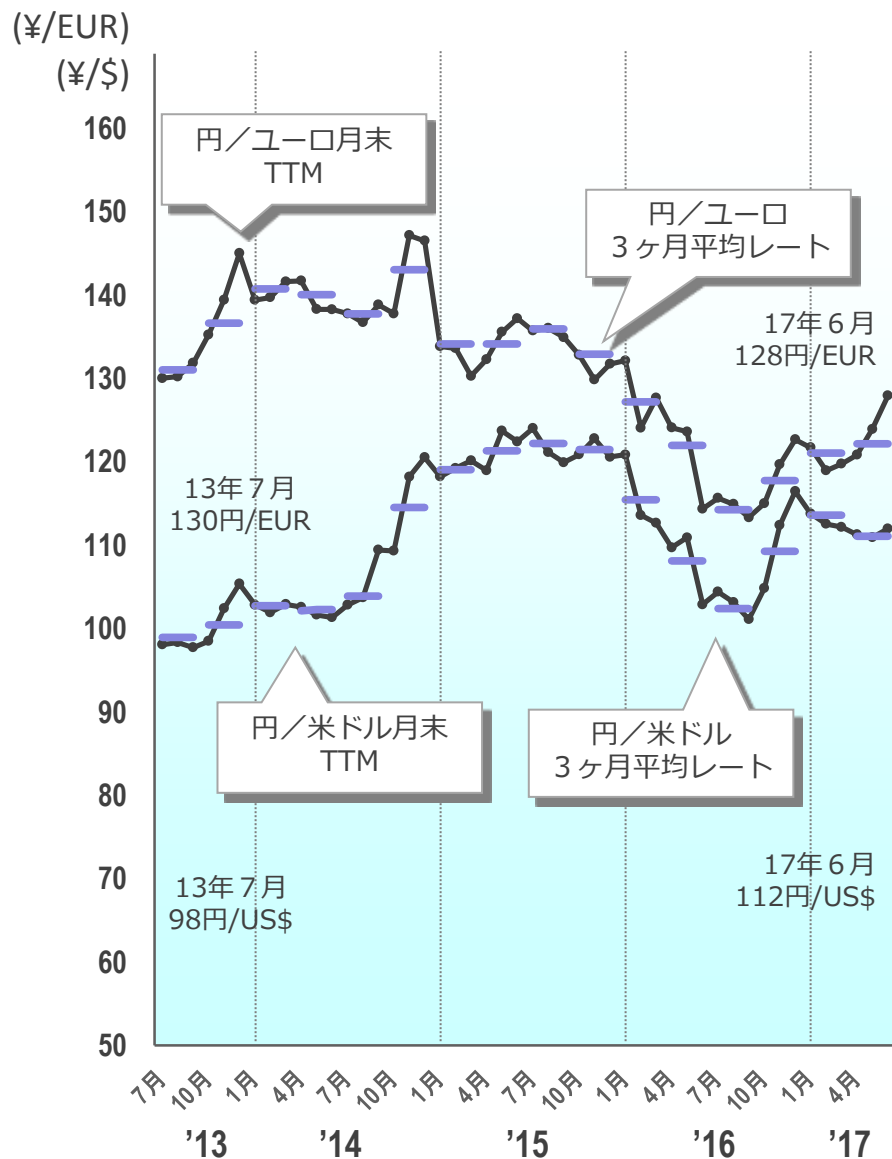
【出所：Platt's社のDATAを基に弊社推定】

◆ ベンゼン価格推移



【出所：BZ DewittのDATAを基に弊社推定】

◆ 円／米ドル、円／ユーロ為替レート推移



◆ 主要医薬品 売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	16年度					17年度 1Q
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	
ボナロン [®] *1	骨粗鬆症治療剤	31	28	31	25	116	28
ワンアルファ [®]	骨粗鬆症治療剤	10	9	10	8	37	9
骨粗鬆症治療剤 計		41	38	41	33	153	37
フェブリク [®]	高尿酸血症・痛風治療剤	64	64	75	63	265	74
ムコソルバン [®]	去痰剤	14	13	17	13	58	13
ベニロン [®]	重症感染症治療剤	10	12	14	11	47	13
ロコア [®]	経皮吸収型鎮痛消炎剤	2	2	3	3	10	5
ラキソベロン [®]	緩下剤	5	5	5	4	20	4
ソマチュリン [®] *2	先端巨大症・下垂体性巨人症 治療剤	4	4	5	4	17	4
トライコア [®]	高脂血症治療剤	4	4	4	4	15	4
オルベスコ [®]	喘息治療剤	3	3	3	3	12	3

*1 ボナロン[®]/Bonalon[®] はMerck Sharp & Dohme Corp. (米)の登録商標です。*2 ソマチュリン[®]/Somatuline[®] は Ipsen Pharma (仏) の登録商標です。

◆ 疾患分野別臨床開発段階 (2017年6月末現在)

	臨床開発段階				
	Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認／新規上市*
骨・関節 領域		KTP-001	ITM-058		
呼吸器 領域		PTR-36			
代謝・ 循環器 領域	TMX-049DN	TMX-049 TMG-123	STM-279 VRS-317	TMX-67 [フェブキソスタット] (中国) ITM-014N [ソマチュリン®] (効能・効果追加： 神経内分泌腫瘍)	
その他			GGs-ON, -MPA, -CIDP [ベニロン] (効能・効果追加①視神経炎<ON> (効能・効果追加②顕微鏡的多発 血管炎<MPA>) (効能・効果追加③：慢性炎症性 脱髄性多発根神経炎<CIDP>)		

◆ 新規開発医薬品 (2017年6月末現在)

【承認申請】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TMX-67 (フェブキソスタット)	高尿酸血症・ 痛風	国内販売しているフェブリク錠を中国に導出する。本剤は、強力な尿酸生成抑制効果に加え、腎機能低下等により既存治療薬を使うことのできなかった患者へも使用が可能であり、中国における高尿酸血症・痛風治療の新たな選択肢として、高尿酸血症・痛風患者のQOL (Quality of Life) 向上に貢献できることが期待される。	錠剤	共同開発： アステラス製薬 (中国) 有限公司 2015年11月承認申請
ITM-014N (ランレオチド酢酸塩)	神経内分泌腫瘍	ソマトスタチン受容体を介したアポトーシスの誘導 (直接的作用) や細胞栄養因子の分泌制御 (間接的作用) を介した作用により、神経内分泌腫瘍の進展抑制や諸症状の改善が期待される。	注射	導入： 仏イプセン社 (効能・効果追加) 2016年7月承認申請

◆ 新規開発医薬品 (2017年6月末現在)

【Phase III】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GGS-ON (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	視神経炎	本剤の免疫調節作用により、視神経の炎症を抑制し、視機能を改善することが期待される。	注射	共同開発：化血研 (効能・効果追加)
GGS-MPA (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害(多発性単神経炎)を改善することが期待される。	注射	共同開発：化血研 (効能・効果追加)
GGS-CIDP (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎	本剤の免疫調節作用により、末梢神経の炎症を抑制し、低下した筋力を改善することが期待される。	注射	共同開発：化血研 (効能・効果追加)
STM-279	ADA (アデノシン・デアミンナーゼ) 欠損症	本剤 (ポリエチレングリコール修飾遺伝子組換えウシADA類縁体) は、ADA欠損症患者にADAを補充することで、リンパ球の減少を抑える注射剤であり、重症複合免疫不全症 (SCID) の発症を回避することが期待される。	注射	導入： 英シグマタウ社
VRS-317	小児・成長ホルモン分泌不全性低身長症	ポリペプチドを融合し、長期作用性を有する組換えヒト成長ホルモン。ヴェルサーティス社による米国Ph-2試験において、毎日注射する必要がある既存製剤と同様の効果を月2回の注射で得られることが示されている。	注射	導入： 米ヴェルサーティス社 Ph-2/3試験の第3相期を実施中
ITM-058	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と安全性 (高カルシウム血症のリスク低減) が期待できる。	注射	導入： 仏イプセン社

◆ 新規開発医薬品 (2017年6月末現在)

【Phase II】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
KTP-001	腰椎椎間板ヘルニア	腰椎椎間板ヘルニアに対する化学的髄核融解療法剤。 生体内でヘルニアの自然退縮に関わる酵素（マトリックスメタロプロテアーゼ）と同じ構造のヒト型タンパク質であることからアレルギー反応のリスクが少なく、選択的に作用するため、椎間板周囲組織の傷害性が低いと期待される。手術に代わる低侵襲性の治療法の選択肢を広げることができる。	注射	発明者： 波呂浩孝氏、 小森博達氏 共同開発：化血研
PTR-36	気管支喘息	新規作用機序（CRTh2拮抗作用）によって喘息症状をコントロールする長期管理薬。 単剤による吸入ステロイドと同等の治療効果（軽症患者）や吸入ステロイドとの併用による十分な治療効果（軽症～重症の患者）が期待される。	錠剤	導入： 英プルマジェン・セラピューティクス（アズマ）リミテッド社
TMG-123	2 型糖尿病	新規作用機序（肝優位型GK活性化作用）による血糖コントロール薬。 血糖コントロールが不十分な患者で有効性が期待されるほか、高い利便性（1日1回投与、腎機能低下患者で用量調節の必要性低い、薬物相互作用の懸念が少ない等）が期待される。	錠剤	自社開発品
TMX-049	高尿酸血症・痛風	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。新規高尿酸血症治療薬として、有効性と安全性に優れることが期待される。	錠剤	自社開発品

◆ 新規開発医薬品 (2017年6月末現在)

【Phase I】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TMX-049DN	2 型糖尿病に おける糖尿病 性腎症	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。 新規糖尿病性腎症治療薬として、腎症の進展抑 制が期待される。	錠剤	自社開発品

◆ 導入品目の状況 (直近3年間を記載)

導入契約	導入元	内 容
2015年 3 月	大正製薬(株)	変形性関節症の鎮痛・消炎を適応症とした、エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付 剤TT-063の国内における販売権許諾契約を締結 (2015年 9 月 : 大正製薬(株)が製造販売承認を取得) (2016年 1 月 : 「ロコア」として大正富山医薬品(株)と共同販売を開始)

TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions

Human Chemistry, Human Solutions

テイジンブランドの約束を“Human Chemistry, Human Solutions”と表現します。

この約束は、「人と地球環境に配慮した化学技術の向上と、社会と顧客が期待している解決策を提供することで本当の価値を実現することに挑戦し続けること」を意味しています。

私たちはこの約束を確実に成し遂げ、企業理念であるQuality of Lifeの向上に努め、社会と顧客から信頼される企業グループであり続けます。